

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：おわせ S E A モデル協議会

活動地域：三重県 尾鷲市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

おわせ S E A モデルを活用した

「ふるさと尾鷲」の復活

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

共通取組

- 管理運営組織検討 → 事業フレーム、FS、事業スキーム（検討継続中）
- インフラ整備内容検討 → 基本思想、項目洗い出し、課題整理（検討継続中）
- SH意見交換会 → （目的）企業参画・進出促進のためのPJアピール及び企業との意見交換
参加者：35団体76名（行政4、大学1、その他民間団体等30）
- 企業誘致活動（視察、意見交換等）

プロジェクトS

- 尾鷲式サウナ開発PJ → 試作品製作、クラウドファンディング（3月上旬～4月中旬実施）
▣ 2021年度 プライベートサウナ製品化（予定）
- 尾鷲固有の地域資源を活かした中長期滞在型ヒーリングプログラム開発事業
→ with・afterコロナを見据えたヒーリングツアー実証（2月11日～14日（伊勢市・尾鷲市））
→ 地元事業者、伊勢市事業者、大学、県外企業（物品等提供）など約35社
- スポーツ振興ゾーン基本構想策定、集客の「核」の方針検討、既存施設の利活用検討、積極的な情報発信（各種SNS活用）など

プロジェクトE

- バイオマス発電事業
→ 燃料調達可能量（地産地消）に見合った設備仕様の見直し、来年度の事業化に向けた準備など
→ 排熱・排ガス（未利用エネルギー）を活用した新たなビジネスモデル実現に向けた技術検討・調査
- 太陽光発電事業
→ 実現に向けた検討開始（デッドスペースの有効活用）

プロジェクトA

- 陸上養殖
→ 海ぶどう実証実験・マーケティング調査（サプライチェーンマネジメントの可能性）・見学会
▣ 尾鷲湾の水質で生育OK・次年度から現地実証開始
エビを活用したバイオフィロックテクノロジーの基礎実験 ▣ 生残率飛躍的に向上
- アグリ関係
→ 三重県農業研究所紀南果樹研究室ヒアリング ▣ 南国フルーツの生産可能

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	PJ-S（市民サービス・文化・観光事業）		
	概要	豊かな自然など既存の地域資源を有効活用し、イベント、体験型メニュー、宿泊、飲食・物販事業を創出し、親子3世代が楽しめる場とすることで、集客交流人口の増加を図り地域活性化を目指す。		
	課題・ボトルネック	イベントの創出、ハブ機能の構築、収益事業の確立、ハード整備のための資金確保	力を借りたい人物・企業像	イベントのアイデアを実現させるためのアドバイザー事業者を連携させられる企業連携プロデューサー 出資事業者（企業版ふるさと納税など）
2	事業名	PJ-E（エネルギー事業）		
	概要	尾鷲三田火力発電所跡地を活用し、地域に眠る未利用資源を有効活用した地域産業の振興、雇用促進など地域の発展・活性化に寄与する新たなエネルギー施策の実現を目指す。		
	課題・ボトルネック	燃料材の調達、林業従事者の高齢化・人手不足	力を借りたい人物・企業像	林業分野の人材育成や燃料材調達に資するノウハウを有する専門家
3	事業名	PJ-A（アクア・アグリ事業）		
	概要	尾鷲三田火力発電所跡地を活用し、陸上養殖や施設農園等、新たな産業により、地域産業の振興、地域資源の創出、雇用促進など地域の発展・活性化を目指す。		
	課題・ボトルネック	インフラ整備費・個別事業スキーム	力を借りたい人物・企業像	事業スキーム策定のノウハウを有する専門家

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

【共通】

企業進出のための諸条件、進出エリアの業種状況、協議会・地域の一体感、主軸となる企業が決まらなければエリア開発が進まない。

【PJ-S】

企業との意見交換を通じ、多くのアドバイスを頂いたことで、解決すべき課題の気づきにつながった。

【PJ-E】

尾鷲周辺で山を所有し、伐採搬出しながら事業性が成り立っている民間企業の協力を得て、現場視察や勉強会を実施したことで、新たな知見が得られ施業方法の見直しのきっかけにつながった。

【PJ-A】

コロナ禍で実験用のエビ種苗が入手できない際にステークホルダーからの紹介者が新たなステークホルダーとなって協力いただき実験を行うことができた。

地域のコンセプトを描く！

【共通】

新たな可能性、現実との乖離が明確となった。

【PJ-S】

既存の地域資源を活用するなかで、集客の「核」となるもの、サテライトになるものの位置づけを認識することができた。

【PJ-E】

地産地消のバイオマス発電事業の実現による循環型社会形成への関連・影響を改めて認識することができた。

【PJ-A】

企業誘致活動を行う中で、循環型社会について興味をもつ企業が多いことが認識することができた。

事業のストーリーを語る！

【共通】

3者の連携と地域全体としての情熱をもった関りがなければ、企業進出も厳しいことが理解できた。

【PJ-S】

SHミーティング 既存のステークホルダーとのつながりにより、各種実証事業を行ったことで、地元事業者をはじめとする更なるステークホルダーの増加・強化並びに広域的な情報発信につながることに気づいた。

【PJ-E】

バイオマス燃料調達の困難状況を通じて、林業における課題や厳しさを目の当たりにしたことにより、地産地消のバイオマス発電事業を必ず実現させ、林業・地域産業の振興に貢献したいとの意識改革につながった。

【PJ-A】

環境問題と地域振興は表裏一体で、企業誘致は経済的活動だけが目的ではないことを認識し、企業と折衝するよう心掛けた。

地域の目標を立てる！

【共通】

国が進めようとしている、脱炭素社会の実現、持続可能な循環型社会の構築モデルとして、SEAモデル構想がまさしくマッチしており、これを実現することによる新たな社会構築への道筋が見えた。

【PJ-S】

既存の地域資源を活用し集客交流人口を増加させるための「核」となるものが明確となり、それにより点を線に、線を面に繋げていくための道筋が見えた。

【PJ-E】

バイオマス発電事業を実現させることで、脱炭素社会への寄与度合いを定量的に知ることができた。

【PJ-A】

新規事業創出により、障がい者・高齢者・子育て世代の雇用を生み出し、循環型社会の学習の場となるよう活動していきたい。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

共通取組

- 協議会を構成する行政、民間、団体間での土地所有（所有者：中部電力）、インフラ整備などに対する考え方が三者三様であり、運営組織体構築、インフラ整備に係る調整が進まないため、企業が求める情報提示ができない。
- 情報発信力が弱い。

プロジェクトS

- 集客交流人口を増加させるべく、スポーツ振興ゾーン、築山（憩いの場・避難施設）などサテライトとなるものの位置づけは見えてきたが、集客・誘客の「核」となるものの検討と時間軸を定めたなかでの構築が必要である。
- 事業推進にあたり、「企業版ふるさと納税」などによる企業からの支援が必要不可欠である。

プロジェクトE

- バイオマス発電事業の燃料調達活動において、安価な外国材の影響や木造住宅の建築数減少による原木価格の低下から、伐採搬出コストとの採算が合わず、バイオマス燃料も出づらい状況かつ、周辺地域で乱立しているバイオマス発電向けに既に燃料が確保されていた状況で、事業性を確保しながら必要燃料量を確保することに苦慮した。
- 地元林業が抱える課題として、従事者の高齢化、人手不足、雇用の減少（若者を雇用してもすぐにやめてしまうなど）、人材育成が困難、山主が不明確な山林への調査対応などにより、伐採搬出したくてもできない状況であることも見えてきた。

プロジェクトA

- 企業誘致活動を行う上で、当地域のメリットをどのように見せるか、デメリットをどのように補完するのかについて長く課題となっている。
- 地元事業者にも事業参画の検討依頼しており、興味を持つ事業者もあるが、現状では具体的に折衝できた事業者は少ない。

今後の展望

共通取組

- 発電所跡地の管理運営方法に関する仕組みを明確化する。
- インフラ等企業進出に係る諸条件を整理し提示する。
- 積極的な情報発信に努め、企業誘致に取り組む。

プロジェクトS

- スポーツ振興ゾーンなど具体的に事業実施に向け諸手続きを進めていく。
- 本年度実施した、ツアー実証、サウナPJの磨き上げを行い、企業とタイアップするなかで、事業化を進め、跡地へ（から）の集客・誘客に繋げていく。
- 集客の「核」について専門家のアドバイスも頂きながら庁内検討を進め、令和3年9月までに方向性を定め、構想を示した上で、時間軸の中で具体的に事業を展開していく。
- 本年度実施した、SHミーティングを継続実施することで、企業の関心を途切れさせない。
- 令和3年1月より実施の各種SNS運用により、積極的な情報提供を行う。

プロジェクトE

- 尾鷲周辺の地産地消のバイオマス発電事業を必ず実現させることで、林業ならびに地域産業の振興、雇用促進など地域の発展・活性化に寄与するとともに、未利用エネルギーを活用した新たなエネルギー施策の実現にチャレンジしたい。

プロジェクトA

- 可能性の最も高い案件に注力して事業化を成功させ、その成功事例を基に次の事業創出に活かす。